

茂原工場



千葉工場



1



2



3



4



5



6

# 2工場体制の確立により、安定供給と短納期対応がさらに進む システム建築「yess建築」の 用途拡大と飛躍に向けて

建設業界では需要が堅調に伸びている一方で、人手不足などの課題が深刻化している。その課題を解決する工法として期待が高まっているのが「システム建築」という工法だ。その中でも横河システム建築が展開する「yess(イエス)建築」は業界トップクラスのシェアを誇る。年々引き合いが高まる中2019年8月には茂原工場を完成させ、既存の千葉工場と合わせて生産能力を倍増。22年には月産1万トンを引き上げる計画だということから需要の大きさがわかる。今回は建築部材の安定供給が可能になるとともに「短納期、低価格、高品質」を誇る「yess建築」の強みを深掘りする。 制作・東洋経済企画広告制作チーム

Business  
ASPECT

横河システム建築

## 自社専用拠点が2工場へ 部材の安定供給が可能に

2024年度にも全線開通の見通しとなっている首都圏中央連絡自動車道(圏央道)。その圏央道茂原北ICから約25.5キロ、車で約5分という至近距離に、千葉県が新たに整備した「茂原にはる工業団地」が広がっている。

同工業団地の中で、最も大きな敷地を占めるのが19年8月に竣工したばかりの、横河システム建築「茂原工場」だ。敷地面積11万2921平方メートルに、工場棟、塗装・出荷ヤード棟、事務所棟などが配置されている。同社はこれまで、日本でも珍しいシステム建築専用工場「千葉工場」を有していた。新工場はシステム建築専用工場としては2拠点目になる。

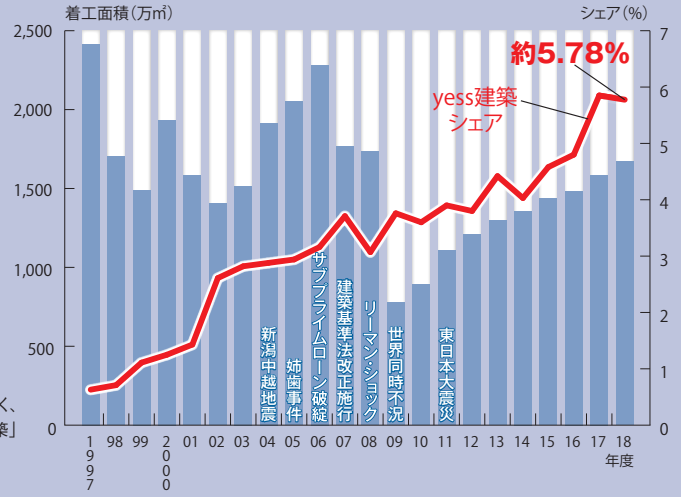
同社 代表取締役社長の大島輝彦氏は「茂原工場の完成・稼働により、千葉工場と合わせた生産能力は直近月産7500トンとなりました。今後も設備増強を行い、22年度には月間生産量をこれまでの2倍の1万トンとする計画です。集中購買、一括生産により、『yes建築』の部材を安定的に生産できる体制が整いました」と話す。

「yes(イエス)建築」は、同社が展開するシステム建築のブランド名だ。システム建築は、鉄骨、屋根、外壁、建



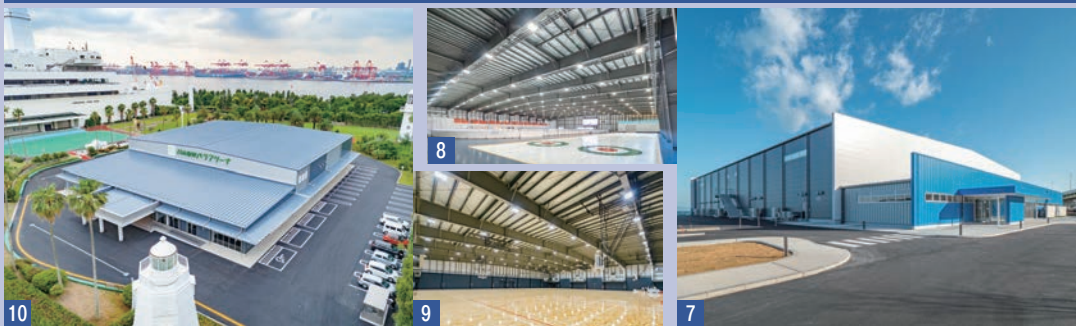
横河システム建築  
代表取締役社長  
**大島 輝彦**

### 全国の工場・倉庫・作業所(鉄骨造)の着工面積の推移とyes建築のシェア



「yes建築」の受注実績だけでなく、全国の着工面積に占める「yes建築」のシェアも実勢を伸ばしている。

### スポーツ施設



- 1 鉄骨生産工場
- 2 出荷ヤード
- 3 事務所棟
- 4 鉄骨生産工場 フランジライン
- 5 鉄骨生産工場 BHライン
- 6 事務所棟 ホール

具などの部材を標準化することにより高品質な建物が短工期、低コストで建築できるのが大きな特長だ。その中でも同社の「yes建築」はビルドHフレームによる最大60メートルの無柱スパンの大空間設計や、建物の幅、長さ、高さなどをユニットピッチで設計できるなど独自の機能を持つシステム建築となっている。

「yes建築」へのニーズは旺盛だ。中でもeコマース(電子商取引)企業は、各地で物流拠点の整備を進めている。一方で、原材料費や人件費の高騰、ボルトなど建設資材の不足、溶接工などの職人やエンジニアの人手不足、建設会社やファブリケーター(鉄骨加工業者)の減少などに伴う繁忙などにより、これらの開発や投資が計画どおりに進んでいないのが現状である。

その課題解決を実現するのが「yes建築」だ。システム建築の大きな利点の一つは、品質・工程管理が容易なことだ。部材が標準化されているため、高品質の加工や施工ができる。

さらに「yes建築」は、部材の標準化だけではなく、営業の見積もり・積算、生産設計、工場での実際の生産まで、ワンストップで行えるシステムが構築されているため、業務プロセス全体の省力化が可能だ。

## 店舗、スポーツ施設など 多様な用途に対応が可能

「茂原工場の建設に当たっても各棟に『Yes 建築』を採用しています。構造体だけでなく外装についても仕様をシステム化しており、事務所棟は軽量で断熱性の高いサンドイッチパネル、バーチカル（縦型）サッシなどを用い、洗練された意匠が見学者たちにも好評でした。茂原工場自身が『Yes 建築』のシールームになっているのです」と大島氏は紹介する。特筆すべきはその工期だ。延べ床面積2万8348平方メートルの茂原工場の建屋建設に当たり、基礎工事から約1年で完成しているというから驚く。

このような「短納期、低価格、高品質」というメリットが注目され、引き合いが増えている。「すでに全国で9500棟の実績がありますが、最近ではお客様（施主）から直接お問い合わせをいただき、『Yes 建築』で建てたいと、ご相談をいただく機会も珍しくありません」と大島氏は話す。

従来、「Yes 建築」で施工する物件は倉庫や工場が主流だったが、最近ではその用途も広がっているようだ。「建物の規模についても、設計を標準化しており、建築面積200平方メートルのものから2万平方メートルを超えるものまで、容易に対応することができます。軽量

防災倉庫	店舗	事務所
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		
		

- 7 8 関空アイスアリーナ(大阪府)
- 9 10 日本財団バラアリーナ(東京都)
- 11 12 旭ブロック建設(株)  
長浜事業所事務所(高知県)
- 13 14 XEBEC(ジーベック)  
登別店(北海道)
- 15 16 (有)ライダーズパークWith  
カワサキプラザ(福岡県)
- 17 18 ネットヨタ栃木(株)  
ゆいの杜店(栃木県)
- 19 高床式防災倉庫(CG)
- 20 21 (株)セブンユニフォーム  
ロジスティックセンター(栃木県)
- 22 23 アサヒロジスティクス(株)  
五霞共配センター(茨城県)
- 24 25 湯河原町真鶴町衛生組合  
一般廃棄物最終処分場(神奈川県)
- 26 27 南部広域最終処分場  
美らグリーン南城 貯留槽(沖縄県)

化、大スパンの建築を得意としているため、商業施設なども含め、さまざまな建物での展開も可能です(大島氏)。

実際に、大型のホームセンター、スーパー、ドラッグストアなどの商業施設、事務所棟(オフィス)、体育館などのスポーツ施設、さらには廃棄物最終処分場なども、「Yes 建築」で建設されているという。

社会の要請に応える提案も行っている。近年、台風による豪雨災害により、多くの地域で浸水などが発生し、その被害は甚大なものとなった。「私どもも、建築を提供している会社として、お役に立てることはないかと考え、高床式防災倉庫を開発しました」と大島氏。地域の防災はもとより、企業のBCP(事業継続計画)対応でも活用できそうだ。

## 豊富な経験による提案力での確な設備投資を支援

注目されるシステム建築の中でも、「Yes 建築」は国内トップクラスのシェアを誇り、業界をリードする存在だ。

経済のデジタル化が進む中、今や生活者にとっては、eコマースなどの電子商取引による商品の購入が買物の標準となっている。商品の組立・加工工場、集荷場、配送センターなどの整備

が急速に進んでいるが、それぞれの拠点で、「yess建築」が活躍しているという。また最近、スーパー、コンビニで多く見られるレトルト食品においては、大消費地である関東圏、東海圏、近畿圏などの近郊にその製造拠点を進んでいる。工場、冷蔵冷凍倉庫、事務所、店舗などへの建築に導入が広がっているという。

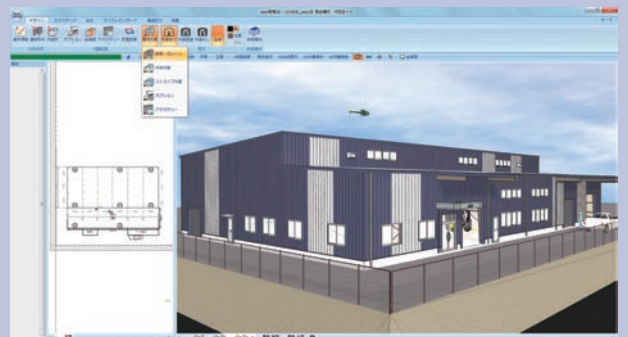
前述したように、工場、倉庫をはじめ、商業施設のほか、スポーツ施設、最終処分場など、施設の用途に応じたプランニングを行う。降雪量や耐風性能など、地域の特徴を熟知した設計にも定評がある。軽量化、大スパンという特長を生かし、柱の少ない大空間を造ることができると、工場でも商業施設でも、柔軟かつ効率性の高いアイデアが実現する。

「加えて、『yess建築』では、上屋のプランニングから積算設計・生産現場施工までを貫けて行っているため、お客様の事業展開や設備投資の計画に応じた、迅速な対応が可能です」と大島氏は話す。

## 全国1200社のビルダーネットワーク

ここまで「yess建築」の特色を紹介してきた。横河システム建築が、業界でも珍しいシステム建築専用工場2工場を有し、建築面積では月産約

### 「yess見積3D」操作画面



「yess見積3D」では、建物の寸法や建具配置、外壁の色指定など建物イメージをきれいなCGでゲーム感覚で行うことができる。またサイト上では最新の技術を駆使した美しい動画や写真が豊富に掲載されている。

10万平方メートルを超える能力を持つているのは大きな強みだが、同社を支えるもう一つの強みが、「ビルダー」と呼ばれる地域の建設会社のネットワークだ。現在、ビルダーの数は北海道から沖縄まで全国約1200社。これらのビルダーが、事前の相談から見積もり、施工、メンテナンス、増築や改修まで地域の顧客企業の要望にきめ細かく対応する。

「地域に根差し、お客様と信頼関係を構築し、ニーズを把握しているの

### ビルダー加盟店ネットワーク



各地のビルダー加盟店が集まるブロックビルダー総会の記念撮影の様子。ビルダー総会は全国7カ所で開催される。



地域の顧客企業に対応するビルダー加盟店ネットワークは北海道から沖縄まで全国展開する。

がビルダーです。ビルダーの担当者が「yess見積3D」などを活用し、迅速で的確な提案をし、そしてお引き渡し後のメンテナンスを的確に行うことで、お客様の信頼を得ています」と大島氏は話す。

この「yess見積3D」システムは、「yess建築」独自のツールで、図面や見積書、工程表の作成のほか、建物の完成イメージ図を3次元パースで提案できるものだ。建物内をバーチャルにウォークスルー可能で、カラーバリ

エーションも簡単にシミュレーションできる。

一般の方でもマウスのドラッグ&ドロップや表示されたメニューから選ぶだけで簡単に操作できるため、営業担当者はもとより事務のスタッフでも、これらの業務が可能だ。顧客の要望に応じて、寸法や建具配置、部材の変更なども簡単にできる。しかも通常なら複雑な計算で時間のかかる参考価格も、その場ですぐにわかるのだ。

「yess見積3D」なら、人的リソースに限りのある地域の建設会社などでも、迅速かつ柔軟な提案ができ、受注にもつながりやすいに違いない。大島氏によれば、在来工法からシステム建築へと事業を転換し、主力事業として参加する建設会社も増えているという。

大げさではなく、「yess建築」が地域に新たなビジネスを生み出し、地域の活性化に貢献しようとしている。

「『yess建築』は、システム建築では国内トップクラスのシェアといっても、非住宅S造の工場・倉庫・作業所の着工床面積ではまだ6%弱のシェア。まだまだ伸びしろがあると考えています。お客様やビルダーの皆様の信頼、ご要望に応え、さらなるご利用を広げていきたいと願っています」と大島氏は力を込める。